

会報

No. 21

平成2年3月26日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 771-0069



「公民館と図書館」

園部町立園部図書館長

高木 茂

少し遡ることであるが、昭和四十六年に出された国の社会教育審議会答申「『急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について』」において、公民館を「地域住民ひとりひとりの学習の場として、住民が読書し、お互いの交友を深める場として：拡充されることが必要である」とし、また「日常生活圏内の住民を対象とする社会教育施設である」と規定している。そしてさらに「他の公共施設との併設を考えるなど設置の方式に工夫を加える必要」があることを示唆している。

ところでこの答申で図書館に関しては「ひとびとの多様な自主的学習、研究および調査に利便を供し、また高度化、専門化した知識や情報を提供するための中心的施設」であると規定し、「市がその設置促進を図ることはいうまでもないが、町村においても単独または共同で、あるいは公民館の図書室として設置する必要がある。最も重要なことは、分館、

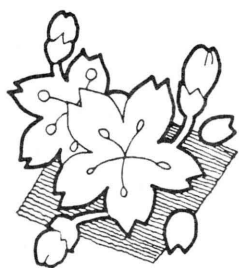
公民館図書室、配本所、ブックモビーなど」と結んで図書館のサービス網を充実するとともに、最近の出版物のはんらんに対応して読書相談、読書指導を強化することである」として、図書館設置や読書推進を促すとともに、とくに公民館との連携いを強調している。

これらのことを要約すると、地域社会とりわけ日常生活圏のなかの学習の場であり、仲間づくりのための場である公民館は、図書館と密接なつながりをもち、図書室を設け主催事業としての講座や、学級や、そこを拠点とした自主的な学習サークルを通じて、読書活動や読書指導が行われる場でもあるということになる。

ところで読書とは、もともと個人で行う活動であり、図書館が社会教育施設として共通の役割をもつとしても、端的に言えば複数集合学習の形態と、個人ですすめる学習、つまりひとりひとりがそれぞれの場で任意に行う個人学習とがある。しかし

それらの学習機会提供が完全分立するものではなく、社会教育施設の特徴、とくに図書館と公民館連携いシステム、施設間のネットワークなどを考え住民学習の効果を工夫しあうことから、図書館法の主旨に基づく公共図書館設置の必要性がより求められるのではないかと思うのです。

かつて私も四十年前ほど前に、公民館活動からはじまり公民館図書室を設け、そしてさらに公立図書館設置に意欲を燃やした若い日の思いの中に、社会教育施設の専門的分化と、その有機的連携いを求めた思いが今よみがえるのです。とりわけ生涯学習の推進がさげばれる今日、社会教育施設それぞれがもつ特性と効果的活動の充実、連携いはますます重要であり、そのことはまた公民館と併行して公立図書館の設置と充実の必要なきときであると思うのです。



図書館めぐり

精華町立図書館

精華町は、学研都市の中核地として各方面から大変注目されており、大きく変貌しつつあります。

現在の人口は、一万七千七百五十三人ですが今後ニュータウンを中心に増加の傾向にあります。

当館は、昭和五十三年に町立図書館に昇格して十二年になりその間、昭和六十年に現在の町役場敷地内に鉄骨二階建三百三十六平方メートルの新館がオープンしました。図書館サービスは本館を中心に、移動図書館「あおぞら号」が、広域サービスを目ざして九か所のステーションを巡回しています。

ところで、最近の話題として、利用者の力作の絵画や彫刻、工芸品等を館内のコーナーに展示し町民のミニ美術館として親しまれています。又恒例となっている年一回の文学散歩も十一回を数え年々好評です。中でも第十回の若狭の若州一滴文庫（水上勉記念館）は、バスで遠出になりましたが良い記念になりました。最近、近隣の図書館では新館構想

が具体化されていますが、当町ではまだ少し先の予定です。しかしこうした日常の小さな活動が住民に伝える図書館づくりの基礎となればと努力しています。



園部町立園部図書館

園部町立図書館は昭和二十七年八月、それまで書庫にねむっていた旧園部藩主小出氏の蔵書約二千冊余を基礎資料として開館しました。

当時同じ施設内には京都府立図書館園部分館があり、相互に図書利用をはかりながら多くの利用を得ました。同時に読書サークルなどの育成や講座などを設け、図書館利用と併せた学習活動の推進をはかりました。こうした活動は

今日にも引き継がれ、多くの文化サークルとして今も活発な活動が行われています。

その後施設の移動等が何回となくあって不安定な時期がありました。昭和五十四年四月、充実した中央公民館が建設されるにおよび、併せて図書館としての機能をもつ施設、設備が安定しました。

図書館と公民館の同居は社会教育を進める上で効果的な点が多く、各種の講座や学習と結んで資料利用をはかっているところです。図書館の単独事業としても、絵本づくり講習や読書教室、紙芝居の集いなど行いまた新刊紹介など広報活動にも留意し親しみをもつ図書館として努力を致しているところです。



第二回理事会報告

今年度第二回目の理事会が十一月二十八日府立図書館で開かれ、来年度予算に関する要望活動等を中心に協議されました。

生涯学習社会を迎え、公共図書館の存在と役割が大きくクローズアップされてきていますが、京都府下の二十五町村には未だ公立図書館が設置されていません。こうした状況を鑑み、今年度は前記町村に対し、公立図書館設置促進等の要望書を提出することになりました。

次に、各専門委員会から報告があり、研修研究委員会からは実技交流会（十一月二十二日実施）の報告、参考事務研修会、児童奉仕研究グループの年度内事業実施等の計画が報告され、相互協力委員会からは「雑誌・新聞総合目録」の刊行予定、隔年実施の相互協力の実態調査（三年度予定）について、また、広報委員会からは今年度二号目の会報を六頁立てとして発行する旨、それぞれ報告されました。



近公図奉仕部門

研究集会に参加して

城陽市立図書館

津守 良子

研究集会で印象に残ったのは、富山県立図書館の参納哲朗氏の事例発表でした。昭和四十三年にカード体総合目録事業を開始し、三年近くかかって二十六万枚のカードを作成し、四十七年三月にカードによるネットワークが完成したということである。そして更に五十四年七月には県内民間刊行物情報紙「とやま」を発刊。平成二年四月にはコンピュータリオン検索を開放するという。平成元年度資料費は三千九百万円、新刊出版の三十%以上購入が目標だという。

都道府県立図書館が、富山県立図書館のレベルにあれば、市町村立図書館は、たとえ自館の資料が少なくても、利用者のリクエストに耳を傾けられるのではないでしょうか。

集会のテーマは「生涯学習時代における図書館サービス」であったが、貸出し・レファレンス、そしてそれらを拡大して行くためのいろいろな事業を充実していく事が生涯学習に役立つのだと思いました。

参考事務研修会

(京図協)に参加して

向日市立図書館

安田 美紀

内容について、まず、府立総合資料館の岡田氏の「総合資料館における参考業務」と題した講演があり、実際の事例から利用者への対応について興味深く話をきかせていただきました。資料館では、件数の多さもさることながら、質問内容も多種多様で、その回答は、自分の思い込みでなく、客観的、科学的でなければならぬ、その為にも、常に自分自身の思考体系を見直す必要があるとのことでした。

館内見学では、書架を一巡し、これを調べるにはこの本、こんな場合には…と次々に宝物をみるように、各分類で参考図書をみせていただきました。改めて、自館の資料をよく知ることの重要性を痛感しました。

次に、実際に資料館の資料を使って調べる事例研究があり、まず基本は、利用者が本当に調べたいことは何かをつかむこと、そして、やはり歩くことだと思いました。初めて、参加しましたが、楽しく過ごさせていただき、ありがとうございました。

ニ ュ ー ス ・ N e w s

カセットブックの

貸出し開始

宇治市中央図書館

宇治市中央図書館では、今年からカセットブックの貸出しを開始しました。小説などの文芸ものを中心にビジネスや宗教・趣味などの他、落語などの演芸もそろえています。今年度は七百巻購入の予定です。

視聴覚資料としては初めての導入ですが、初日から予想を上回る利用があり、一月だけで一千二十七巻の貸出しを行いました。今後は利用者の意向も踏まえ、さらに充実をはかっていきたいと考えています。

八幡市男山市民センター

(仮称) 来年オープン

八幡市民図書館

八幡市では、図書館とコミュニティセンターとの複合施設として「八幡市男山市民センター」(仮称)が建設されることになりました。平成三年度完成、オープンの予定です。

計画によると鉄筋三階建て建物で、一階に入る図書館の床面積は九六八平方メートル。カセット、CDなどの視聴覚コーナーやおはなし室、対面朗読室なども設けられます。蔵書冊数は当初四万冊でスタートの予定で、現在ある市民図書館とはコンピュータのオンラインで結ばれることになっています。

(平成二年度)
全国研究集会日程

○ 整理部門

長野県上山田町

九月十三日～十四日

○ 奉仕部門

福井県福井市

十月十八日～十九日

○ 全国図書館大会

静岡県静岡市

十月二十四日～二十六日

○ 参考事務分科会

岩手県盛岡市

十月三十一日～十一月一日

○ 児童図書館分科会

鹿児島県鹿児島市

一月十七日～十八日



図書館活動広域

振興事業の実施について

京都府立図書館

府立図書館では、平成元年度から府下における読書施設のない町村に対し、「図書館活動広域振興補助事業（国庫補助対象）」を行います。

生涯学習時代を迎え、その中核を担う図書館活動においては、市町村は地域住民への直接サービスを、府は、それらの図書館活動を援助することを基本として、それぞれの役割分担に応じ努力する必要があります。

図書館活動広域振興補助事業は、当面読書施設のない町村を最優先に図書（新刊本）の「大量貸出」を実施するもので、町村は①書架の設置場所の確保、②単独購入図書（一五〇冊～三〇〇冊）の予算化等住民サービスに向けての条件整備をする必要があります。

なおこの事業は、現在公民館図書室等の読書施設があっても図書館を設置していない町村に拡充して行く予定です。



専門委員会ニュース

相互協力委員会

本年度は委員会の開催は、3回でした。いずれも、雑誌・新聞総合目録の作成作業に終始しました。

この総合目録事務局作業には、府立図書館職員が、加わりました。

今期委員会の当初、抱負とした学習活動はできませんでした。

さて、相互協力委員会事業として、府内公共図書館等相互貸借実態調査があります。第1回調査は、61年度における実態を62年度に行いました。

第2回を平成2年度における実態を3年度早々に行うためには、平成2年度中の相互貸借貸出票の保存を加盟施設各位に留意願う必要があります。このため、3月末には、「お願いと留意事項」をお届けします。4月以後担当がかわっても、必ず引き継ぎを行っていただくことが必要となりますので承知願います。なお事業としては、3年度事業となります。

研修研究委員会

1. 児童奉仕実技講習会

平成2年1月26日(金) 13時から16時30分まで、京都芸術短大付属児童図書館において開催。同図書館主任・染川香澄講師より、魅力ある児童奉仕についての講演と手作り遊びの七変化帽子など作成。32名の参加。

2. 参考事務研修会

平成2年2月20日(火) 13時より府立総合資料館で開催。レファレンスの基本と当館の現状について、同館・岡田毅講師よりの講演。館内見学の後、グループ別による事例研究は館内資料を利用解決し回答発表した。30名出席。

3. 大阪府立国際児童文学館の視察研修会

平成2年3月8日(木) 14時より同館の視察と選書について研修。参加者28名。児童奉仕グループ企画。

2年度は新企画メンバーにより更なる発展を期待。

ニュース

久我・吉祥院図書館建設(仮称)

京都市中央図書館

京都市では、次の地域図書館が建設されることになりました。

「久我図書館」は平成二年の夏に、「吉祥院図書館」は平成三年夏の開館予定となっています。

また地域図書館としては、初めてコンピューターを導入します。

広報委員会だより

今号のエッセイには、園部町立図書館館長の高木茂氏から、原稿をいただきました。

この二年間、図書館めぐりをはじめ、図書館活動や研修会事業報告、専門委員会の動きなど、できるだけ提供するように努めました。

その間、加盟館の皆さま方のご協力によって、会報を発行することができました。ありがとうございます。

また、お忙しいなか、ご執筆をいただきました皆さまに、心からお礼を申し上げます。

四月からは新メンバーによることとなりますが、会報のますますの充実を願っています。